

オーパルオプテックス株式会社
安全管理マニュアル

体験学習等の水難事故等未然防止と救助体制について

1 体験学習等実施の判断基準

体験学習等の「中止、中断」の判断基準は、刻々と変化する状況に対応するため、実施当日に収集する気象情報により行う。気象情報は、気象庁ホームページ等から収集するとともに、風力についてはオーパル前浜で風速計を用いて計測する。

中止基準	①大津市南部に暴風警報が発令されている ②大津市南部に大雨警報（浸水害）が発令されている
中断基準	①大津市南部に強風注意報が発令された場合、オーパル前浜にて風速を計測し、7m/s以上の風が1分以上継続して吹いている時 ※1 【強風中断の再開基準】 ・オーパル前浜で風速7m以上の風が1分以上継続して吹いていない場合 ②雷注意報が発令され、なおかつ次の事象が発生している時 ・仰木地区方面に雷雲（積乱雲）の発生と稲光が見られる場合 ・日吉台地区方面に雷雲（積乱雲）の発生と稲光が見られる場合 【雷中断の再開基準】 ・雷雲（積乱雲）が南湖上空から離れたのを確認した時
特記事項	①大津市南部に強風注意報が発令されている時の活動実施について ・強風注意報が発令時に活動を実施する場合は、活動を終えるまで毎時00分に風速を計測する。

※1 風速7m基準の根拠…彦根気象台が定める大津市南部の強風注意報基準は平均風速12m/s。気象庁の予報用語にて「やや強い風」は10～15m/s。これらとオーパル前（琵琶湖南湖）の地理的特性を考慮し、7m/sを基準とする。

2 水難事故の未然防止と発生時の救助体制等

(1) 水難事故の未然防止

- ①活動前の健康状態の確認および急な体調不良時の連絡の事前指導
- ②救命胴衣着用の役割説明と正確着用の徹底
・落水時に脱げないように注意する（体にあわせる、股紐装着）。

(2) 水難事故発生時の救助体制

時間軸	状況と対応
↓	水難事故発生
	湖上現場スタッフは所持している無線機を用いて、水難事故発生を事務所（本部）と周囲に伝える
	乗艇人員を引き上げる動力船の直行 （水難人員が多いと予想される場合は、予備動力船の出艇準備）
	湖岸へ到着 怪我をしていない場合 → 保温、着替え 怪我をしている場合 → 応急処置、病院搬送 心肺停止している場合 → 心肺蘇生法、AED使用、病院搬送

(3) 水難事故発生時の対応マニュアル（掲示用から転載）

水難事故発生	
救助（動力船の直行・湖岸への移送）	
【現場スタッフの対応】	【事務所(本部)スタッフの対応】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 負傷者の確認と搬送 ・ 救急車の要請 ・ 活動現場からの移動、誘導 ・ 活動者の人数確認（教員等と連携） ・ 活動者の動揺を鎮める ・ 病院への付き添い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 119 番へ電話 ・ 活動中止の指示 ・ 情報収集、事実の整理 ・ 関係機関への連絡と連携

緊急連絡先	
救急車 119	大津赤十字病院 077-522-4131
警察 110	大津水上警察 077-525-1415
大津赤十字志賀病院 077-594-8777 琵琶湖大橋病院 077-573-4321 滋賀県警本部 077-522-1231 大津警察署 077-522-1234 雄琴交番 077-578-1410	

(4) 活動種目別水難事故防止指導事項

全活動の 共通事項	①ライフジャケット着用の徹底と、重要性の説明を行う。
	②活動開始前と終了前の集合時に、教員等引率者が参加人数を確認し、オーパル指導者へ連絡する。オーパル指導者は人数確認後に体験活動を開始または終了する。
	③活動前の各自での健康観察・体調不良時の自己対応の確認
カヌー	①事前の転覆防止 ・ カヌーに乗る人の体重の軽重によってカヌーを選ぶ。 （体重 80kg 以上の人は大きいカヌーを使用する） ・ 陸上説明にて、正しい乗り方と転覆時の対処法を指導する。
	②転覆した場合 ・ 速やかにカヌーで救助する。5 艇以上が同時に転覆した場合、栈橋に係留中の動力船が出動し救助に当たる。
ドラゴン ボート	①浸水防止 ・ 座る位置の確認 前後左右バランスに配慮して席につくよう指導する。 ・ 艇の舵取り 真横から波を受ける進路はとらない。 ・ 陸上説明にて正しい乗り方と、浸水および水没、転覆時の対処法を指導する。
	②浸水した場合 ・ 艇中央部の船艇に 10 cm 以上（くるぶしまで浸かる深さ）の水が溜まる浸水があ

	<p>る場合は、直ちに出発点へ引き返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務所(本部)に救助を要請する。 ・ライフジャケットを着けていれば沈まないことを伝え、安心させる。 ・艇は浮沈構造なので沈まないことを伝える。艇から離れないよう指示する。
	<p>③浸水後、水没した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗員数を確認する(湖上残留者がいないか確認)。 ・ライフジャケットを着けていれば沈まないことを伝え、安心させる。 ・艇は浮沈構造なので沈まないことを伝える。艇から離れないよう指示する。
	<p>④浸水後、転覆した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗員数を確認する(艇の下に残留者がいないか確認)。 ・ライフジャケットを着けていれば沈まないことを伝え、安心させる。 ・艇は浮沈構造なので沈まないことを伝える。艇から離れないよう指示する。
	<p>⑤艇の曳航について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、乗員がいる艇を曳航しない。但し、湖面が穏やか(白波が見えない)であり、乗員を乗せたまま曳航したほうが安全確保できると水上監視艇が判断した場合、乗員を乗せたまま曳航することがある。
いかだづくり	<p>①事前の転覆防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転覆しないバランスの良いいかだの型を考えさせる。 ・パイプ間の括り方と板の固定ができていないかを確認させる。 ・湖岸への移動前にスタッフが点検する。 <p>(括り方、板の乗せ方と固定法、移動時の型くずれは問題無いか)</p>
	<p>②転覆した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌーで湖岸までけん引する。 ・レース時は動力船が出艇できるよう待機する。

3 熱中症の予防

「環境省 熱中症予防サイト」、「暑さ指数計」を用いて次のように運用する。

WBGT 基準	オーパルの指針と対策	
危険 気温 35℃～ 指数 31℃～	指針	<ul style="list-style-type: none"> ・気化熱(蒸発熱)で体を冷却しながら活動できるよう、頭部を含めた全身が濡れている状態でしか運動をしてはいけない。 ・10～20分おきに水分補給する。
	対策	<p>①朝から「危険」が予想される場合は朝礼等で全スタッフと情報共有する。</p> <p>②日中に指数が「危険」となった場合は、無線機を用いて全スタッフと共有する。</p> <p>③お客様や体験者に、暑さ指数「危険」であることを伝え、水浴びしなければ運動を含む体験は出来ないことを伝える。水浴びを拒否するお客様には体験を提供してはならない。</p> <p>④10～20分おきに水分補給ができるよう、スタッフから声掛けを行う。</p>
厳重警戒 気温 31～35℃	指針	<ul style="list-style-type: none"> ・10～20分おきに水分補給し、運動強度が高くなる予定の時は水浴びする。

指数 28～31℃	対策	<p>①朝から「厳重警戒」が予想される場合は朝礼等で全スタッフと情報共有する。</p> <p>②日中に指数が「厳重警戒」となった場合は、無線機を用いて全スタッフと共有する。</p> <p>③10～20分おきに水分補給ができるよう、スタッフから声掛けを行う。</p>
警戒 気温 28～31℃ 指数 25～28℃	指針	・30～40分おきに水分補給する。
	対策	<p>①朝から「警戒」が予想される場合は朝礼等で全スタッフと情報共有する。</p> <p>②30～40分おきに水分補給ができるよう、スタッフから声掛けを行う。</p>
注意 気温 24～28℃ 指数 21～25℃	指針	・積極的な水分補給の声掛けを行う。
	対策	<p>①朝から「注意」が予想される場合は朝礼等で全スタッフと情報共有する。</p> <p>②水分補給について、スタッフから声掛けを行う。</p>

[改訂履歴]

2005年6月1日 制定
2013年1月13日 改訂
2019年8月1日 改訂
2022年5月15日 改訂